

留学途中経過報告書【9月】

9月:新学期開始

→班分け試験で前回よりも上のクラスに入り、友達をつくる。(年間計画書より)

\* 8月17日下関発～8月19日太倉着(船)

①学校全体の状況

- ・ 一般の学生の新学期が8月27日水曜日から始まった。
- ・ 一般学生の新入生は最初の2週間は軍事訓練をしている。休日はない。
- ・ 留学生は9月4または5日に班分試験を受けた後、9月8日月曜日から授業が始まった。
- ・ 8月は帰省中の学生が多かったため人が少なかったが、新学期が近づくにつれて人がとても多くなり、にぎやかになってきた。

②授業状況

- ・ 班分試験の結果、私は3.2班。(以前は2.2班)
- ・ クラスは日本人と韓国人が半分を占める。後の半分はアメリカ、オーストラリア、ブラジル、メキシコ、フランス、ドイツ、スウェーデンなどから。全体は20人強だが今週はまだクラス間の移動が可能であり、最終的な決定は来週。
- ・ 第一週は主に午前中の必修科目だけで、主に午後にある選択科目は第2週目から。
- ・ 今年から留学生クラスの制度が変わった。4年間の留学する本科生と私達のように1年や2年あるいは半年で来ている留学生は、今まではひとまとまりになっていたが今年から別物になった。校舎が移動し、当然ひとクラスに短期と長期の留学生が混ざることがなくなった。そのためこちらの校舎のクラスが減り、3班と4班は学生が多いが先生が不足気味のためクラスが増やせないようである。例えば3班は以前3.4班までであったが今回は3.2班まで。

③私生活

- ・ 同じ寮に住む人と顔見知りになり、また多くのクラスメイトもここに住んでいる。
- ・ 健康状態は良好。
- ・ 友人はクラスメイトの他に、日本で交流があった中国人、またはその中国

人の紹介が主。

#### ④その他

- ・ 東ゼミの先輩がフィールドワークで蘇州に来ている。
- ・ 田宮ゼミの先輩が就職活動で上海に来ていたらしい。
- ・ 別の田宮ゼミの先輩が卒論の関係で北京に来ている。蘇州にも来てくれる予定。
- ・ 8月末から9月にかけてとても涼しくなり、時には長袖が必要なほど。今年は涼しくなり始めたのが早かったようだ。

#### ⑤感想

こちらの留学生と交流して思うことは、中国人の友人をつくる機会が少ないということだ。しかし私達は公立大の交換留学生や短期留学生と友人で、更に以前蘇州に短期研修に来た際の友人もいるため非常に恵まれた環境の中にいるのだと実感した。留学生同士で話す時はお互い慣れない中国語で、文法や発音を無視しがちであり、そしてお互いに正確な指摘をすることもできない。しかし中国人の友人はそれを速やかに自然なものに直してくれる。これもまたとても貴重なことであると感じた。

また、私の友人のほとんどは日本語を話すことができるので非常に助かる。しかしそれと同時に焦りもある。せっかく中国に来て中国人と話しているにも関わらず、日本語を使っている意味がないのではないかと。そして彼らの紹介してくれた友人(もちろん中国人)の中には当然日本語を話せない人もいるのだが、初対面の私たちにとても優しい。しかしほとんど聞き取れない。彼らにとって簡単な言葉を選んで話すことはとても面倒なことであろう。それでも私達にとってもよくしてくれる。一緒に歩いている時は車が危ないよと教えてくれたり、会う約束をした日はお土産を持ってきてくれたりである。だから私は言葉が出てこないことがさらに歯がゆい。日本語が話せない友人はもちろん、日本語が話せる友人の言葉も、日本語ではなく中国語で理解したいという気持ちがより一層強くなった。中国人の伝えようとしていることを、彼らの母国語、いつも使っているその言葉でしか出すことの出来ないニュアンスも含めて私の中に入れてくることができればと思う。こんなにも一生懸命話しかけてくれるのに、わからないことが哀しい。「コミュニケーションは伝わらないから続けることができる。伝わったらそこで終わってしまう。」とある講義で聞いたことがあるが、私のこの感情はこのようなことも関係しているのかもしれない。伝わらないけれど伝えたい、この気持ちが私のこれからの中国語学習において一番太い芯になりそうだ。

## 1. 学習成果について

9月は短期研修の時よりもレベルの高いクラスに入ることを目標としていた。以前は初級クラスでの授業だった。

長期留学の今回は9月5日にクラス編成試験をうけ、私は中級クラスの三班に入ることになった。現在（9月20日時点）は授業開始から二週間が経過しており、徐々に蘇州大学の授業の進め方にも慣れてきている。私が在籍している班では約20人の生徒が受講している。この約1/3が韓国人で、次に多いのが日本人、他にアメリカ人、ロシア人、インドネシア人が同じクラスで授業を受けている。

授業中は一番前の席に座り、出来るだけ発言をしようと試みているが、まだ十分ではない。先生にあてられて発言するのではなく、今後は自分から声を出して発言するようにしたい。

また必修科目の他に、**HSK**（漢語水平考試）対策補習も選択した。授業はまだ始まっておらず、どのような授業となるのかは分からないが、11月の**HSK**試験に向けて真剣に取り組もうと思っている。

## 2. 生活状況について

蘇州には短期研修などの機会を訪れたことがあるため、新しい生活が始まるというよりは「帰ってきた」という感覚の方が強い。食べ物や環境の変化で到着して数日は体調が悪かったが、それも次第に慣れ現在は落ち着いた生活が出来ている。

公立大で出会った中国人の友人や、公立大を卒業し中国で働いていらっしゃる先輩方が気遣って下さるので、大変ありがたく感じている。

蘇州は観光地でもあるので、園林などにも出かけた。9月に入ってから「拙政園」と「楓橋風景区」を訪れた。花の盛りの時期は終わっていたが、緑が多く非常に美しかった。そして、蘇州の隣の都市、無錫市に出かけた。無錫では、公立大に在籍している学生や短期研修で宮崎に来ていた学生が案内してくれた。無錫も日系企業など様々な企業があり、非常に発展している都市だと感じた。

また生活面においては、他の留学生とも交流を深めることを目標として挙げていた。私のクラスには韓国人やロシア人がおり、彼らと中国語で会話をしたり、簡単な韓国語やロシア語を教えてもらったりしている。韓国語は公立大で半年間授業を受けていたので、交流の際に大変役に立っている。

来月は国慶節の休みを利用し、世界遺産にもなっている黄山を訪れる予定である。黄山の近くにはゼミで学習した古い町もあるので、ゼミでの経験を活かし充実した休暇にしたいと考えている。